

令和 6 年度開講「演習」仮シラバス

【専攻外演習科目】

※曜日・時限は予定ですので、変更になる可能性があります。

科目名	担当者	曜日	時限
日本語教育学演習ⅠA・ⅠB	菊地 康人	月	2
日本語教育学演習ⅡA・ⅡB	菊地 康人	金	6
言語学演習Ⅰ・Ⅱ	諸星 美智直	火	6
言語学演習Ⅰ・Ⅱ	新井 小枝子	火	2
書道演習Ⅰ・Ⅱ	橋本 貴朗	月	4
表現文化演習Ⅰ・Ⅱ	川口 晴美	木	3

【日本語教育学演習】

【科目名】日本語教育学演習ⅠA・ⅠB	【曜日】月曜
	【時限】2限
【教員名】菊地 康人	
【テーマ】日本語教育を通して日本語を見つめる	
(演習内容)	
<p>〈日本語教育の入門的な知識を体系的に身につける〉ことと、〈日本語教育の学習を通して日本語そのものを見つめ直し、日本語について新たな発見をしながら、ことばを観察・分析する目を養い、ことばの魅力を改めて感じる〉ことを、2つの大きな柱とする。具体的には、日本語の初級教科書を本講のメインテキストとし、各課の趣旨(その課で教えたこと・学んでもらいたいことは何か、教科書はなぜそのようにできているかなど)や、日本語の授業でのその扱いを考え、いくつかの文法項目を日本語学的／日本語教育的に(両面に触れつつ)分析することを中心に据える演習を考えている。広い意味では日本語学的な授業の一種であるが、〈日本語学習者の目で日本語を見る〉とか〈日本語学習者のための文法〉という面がしばしば出てくるので、新たな切り口に接し、新鮮に感じてもらえるであろう。一部は、実際にどう教えるかにも時間を割きたい(教案を書いたり実演したりしてもらって改善を図る)。</p>	
<p>「毎回1～2人だけが大きな課題を課せられて臨む」というタイプの普通の演習の方式ではなく(日本語教育の場合、学生諸君の予備知識がそれほど十分ではないので、このやり方は難しいと思う)、「毎回、当方が事前課題を課し、その答を各自全員が準備した上で臨む」という演習の方式を採る予定。毎回の準備に必要な時間は40～80分程度を想定している。</p>	
<p>「日本語教育学演習ⅡA・ⅡB」(金6)とは、目標・趣旨は同じだが、具体的な内容・題材(扱う課)はできるだけ重複しないように差別化し、どちらを受講しても、上記の目標・趣旨が満たされるようにするつもりである(内容が違うので両方受講することもあってよい)。どちらかという、ⅡA・ⅡBのほうは、これまで日本語教育関係の授業を半期以上受けた(未習でない)学生を想定し、本講ⅠA・ⅠBのほうは、その要件を課さない授業とする予定である。</p>	
<p>ⅠA(前期)とⅠB(後期)は形としては独立した科目ではあるが、ⅠBはⅠAの学習内容を前提として、その続編として行うものである。したがって、ⅠBを受講しようとする学生は、原則としてⅠAを履修していること。または、私の他の科目(「日本語教育学演習ⅡA」「日本語教育研究Ⅰ」など)を受講していること。そうでないと、ⅠBの理解が困難になる。</p>	
(評価方法)	
<p>平常点(出席と日々の授業への取り組み)50%+レポート(授業内容の理解度を見るものと、ある程度自由度の高い課題と、両方を少しずつ課す予定)50%</p>	

【科目名】日本語教育学演習ⅡA・ⅡB	【曜日】金曜
	【時限】6限
【教員名】菊地 康人	
【テーマ】日本語教育を通して日本語を見つめる	
<p>(演習内容)</p> <p>〈日本語教育の入門的な知識を体系的に身につける〉ことと、〈日本語教育の学習を通して日本語そのものを見つめ直し、日本語について新たな発見をしながら、ことばを観察・分析する目を養い、ことばの魅力を改めて感じる〉ことを、2つの大きな柱とする。具体的には、日本語の初級教科書を本講のメインテキストとし、各課の趣旨(その課で教えたこと・学んでもらいたいことは何か、教科書はなぜそのようにできているかなど)や、日本語の授業でのその扱いを考え、いくつかの文法項目を日本語学的／日本語教育的に(両面に触れつつ)分析することを中心に据える演習を考えている。広い意味では日本語学的な授業の一種であるが、〈日本語学習者の目で日本語を見る〉とか〈日本語学習者のための文法〉という面がしばしば出てくるので、新たな切り口に接し、新鮮に感じてもらえるであろう。一部は、実際にどう教えるかにも時間を割きたい(教案を書いたり実演したりしてもらって改善を図る)。</p> <p>「毎回1～2人だけが大きな課題を課せられて臨む」というタイプの普通の演習の方式ではなく(日本語教育の場合、学生諸君の予備知識がそれほど十分ではないので、このやり方は難しいと思う)、「毎回、当方が事前課題を課し、その答を各自全員が準備した上で臨む」という演習の方式を採る予定。毎回の準備に必要な時間は40～80分程度を想定している。</p> <p>「日本語教育学演習ⅠA・ⅠB」(月2)とは、目標・趣旨は同じだが、具体的な内容・題材(扱う課)はできるだけ重複しないように差別化し、どちらを受講しても、上記の目標・趣旨が満たされるようにするつもりである(内容が違うので両方受講することもあってよい)。どちらかという、本講ⅡA・ⅡBのほうは、これまで日本語教育関係の授業を半期以上受けた(未習でない)学生を想定し、ⅠA・ⅠBのほうは、その要件を課さない授業とする予定である。</p> <p>ⅡA(前期)とⅡB(後期)は形としては独立した科目ではあるが、ⅡBはⅡAの学習内容を前提として、その続編として行うものである。したがって、ⅡBを受講しようとする学生は、原則としてⅡAを履修していること。または、私の他の科目(「日本語教育学演習ⅠA」「日本語教育研究Ⅰ」など)を受講していること。そうでないと、ⅠBの理解が困難になる。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>平常点(出席と日々の授業への取り組み)50%+レポート(授業内容の理解度を見るものと、ある程度自由度の高い課題と、両方を少しずつ課す予定)50%</p>	

【言語学演習】

【科目名】言語学演習Ⅰ・Ⅱ	【曜日】火曜
	【時限】6限
【教員名】諸星 美智直	
【テーマ】福祉言語学（ⅢA手話とⅢB点字）の研究	
<p>（演習内容）</p> <p>2016年4月1日、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（障害者差別解消法）の施行により障害を理由とする差別の解消が公的機関・企業を問わず求められる新たな時代になった。ということは、教職・企業・公務員・研究職などあらゆる分野にわたって障害者とコミュニケーションできる人材がますます必要な時代になったということである。これに関わる言語の研究としては、まず、手話と点字が挙げられる。この演習では手話と点字を言語研究の対象として研究する方法を模索することで就職力と研究能力を養う。そこで、ⅢA〔前期〕は、各種手話辞典を資料として、辞書学・語彙・手話史・手話方言などの視点から、各自手話語彙についてテーマを設定して、例えば「酒」は辞書によって指の数・おチョコの返し方・額をポンと打つか否か、また酒の種類など調査して順次発表する。ⅢB〔後期〕は、まず一通り点字のかな・数字・記号などを学習したあと、近代の点字書籍を対象に受講者に担当範囲を割り当てて解読し順次発表する。前期・後期とも未開拓であり同時に将来性のある分野なのでアイデアを出し合い調査することを望む。なお、随時、手話・点字の関連学会の情報を紹介する。卒業論文の履修者には履修を勧める。</p>	
<p>（評価方法）</p> <p>発表・質疑（20%）・単位レポート（80%）による。</p>	

【科目名】言語学演習Ⅰ・Ⅱ	【曜日】火曜
	【時限】2限
【教員名】新井 小枝子	
【テーマ】Ⅰ方言語彙研究の課題 Ⅱ方言語彙の記述と考察	
<p>（演習内容）</p> <p>日本語方言における語彙に注目します。方言語彙の中から、自身が日ごろ気になっている「一語」を取り上げて、以下の観点から説明してみましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①なぜその語が気になるのか。 ②どこで使われている語なのか。 ③どのような人が使っている語なのか。 ④どのような意味用法をもっている語なのか。 ⑤どのような造語発想法にもとづいている語なのか。 ⑥どのような歴史をたどってきた語なのか。 など <p>友人や家族にインタビューしたり、方言辞典をはじめとする方言資料にあたったりしながら、語の具体的な使用方法を収集してデータを蓄積します。さらにそのデータを整理して、わかったことを説明します。その過程では、データが語りだすことのおもしろさや、新たな</p>	

疑問が生ずることの楽しさを実感できると思います。

(評価方法)

- レポート (40%) テーマが的確に設定できたか。設定したテーマに対する調査、データ収集、および分析が的確に行えているか。レポートしての形式が的確に整えられているか。
- 平常点 (60%) 自身の口頭発表とそれに対する質疑への応答。クラスメイトの口頭発表に対する質疑応答への参加。

【書道演習】

【科目名】書道演習Ⅰ・Ⅱ	【曜日】月曜
	【時限】4限
【教員名】橋本 貴朗	
【テーマ】仮名書道—古筆の表現に学ぶ—	
(演習内容) 仮名書道—古筆の表現に学ぶ—	
(評価方法) 毎時間の取り組み 作品、レポート等	

【表現文化演習】

【科目名】表現文化演習Ⅰ・Ⅱ	【曜日】木曜
	【時限】3限
【教員名】川口 晴美	
【テーマ】日本語で書かれたさまざまな詩を読み、自分でも詩を書く。	
(演習内容) 詩を読むことを楽しみながら、言葉の働きを知り、表現方法についての考えを深める。自分なりの感想を言語化してやりとりするなかで読解の方法を学ぶ。 自分でも詩を書いて発表し、講評を受ける。 遠隔授業となった場合は、〈授業資料公開→課題提出〉によって進める。	
(評価方法) 平常点。 資料の詩や他学生の作品を積極的に読み、自分なりの読解を言語化して伝えられたか。 自作の詩を書いて提出できたか。その作品としての完成度は十分なものだったか。	